

人類の友達を守り、生命のネットワークを大切に

- 1 自治体名 小草 (Xiao Cao) ボランティア団体 (中国コロトウ市持続発展可能教育協会)
- 2 発表者 王 卉寧 (WANG, Huining) 華 欣彤 (HUA, Xin Tong)
(指導教師: 劉 思彤 (LIU, Si Tong)、朱 彩鳳 (ZHU, Caifeng))
- 3 活動名 人類の友達を守り、生命の源を大切に
- 4 活動期間 1997年～現在
- 5 活動場所 コロトウ市及びその周辺地域
- 6 活動参加人数 一つの小学校につき毎年約1300～1500名の小学生が参加、ここ数年間はおよそ3000人の小学生が参加した。

7 活動をはじめた経緯及び発表要旨

どのような原因が、いろいろな自然災害や口蹄疫 (こうていえき)、狂牛病 (きょうぎゅうびょう)、SARS また鳥インフルエンザのような伝染病の発生を引き起こしたのでしょうか。人間と生態系でできた生命のネットワークは、現在、破壊されつつあります。毎日75種類の種が絶滅し、3時間ごとに1つの種が消滅し、永遠に復活できない状態になります。一部の種はまだ人類に認識されていないのに、この地球から悄然 (こつぜん) と姿を消していきます。

一つの種が消滅するにつれて、それに関連して20以上の種が消滅することになります。一つの種が壊滅したら、一つの遺伝子ベースを壊したのと同じで、一旦失ってしまったら再生は不可能となります。

動物は人類の良き友です。動物は人類と同様に大地の子です。しかし、動物の運命は人類の認識と行動によって変わります。生命のネットワークは人類が作ったものではないものの、人類のすべての行為は、このネットワークに影響を与え、また、このネットワークからも影響を受けます。

調和が大自然精神の精髓 (せいずい) です。長年、小草ボランティア団は国情と周辺環境の特徴を考え、「人間と動物が仲良し、共生していく」という理念に基づき、努力実行しています。教職員と学生は共同で「野生動物を守り、生態系バランスを維持し、文明の素養 (そよう) を向上し、緑の環境を作る」や「生物多様性を守り、美しい環境を構築する」などの講座を開き、また、環境関連の文章を書き、新聞や雑誌に発表しました。原稿料を赤十字会に寄付しました。また、SARSを克服するため、市民に呼びかけ、募金活動を展開しました。「東苑 (とうえん) 小学校による“鳥類を認識し、鳥類を愛し、鳥類を保護する”という大型科学普及活動」は、「環境保護における重要な出来事」及びコロトウ市年鑑の重要な出来事に書き加えられました。

愛鳥活動は大きな反響を呼び、国・省・市のマス・メディアに何度も報道され、たびたび中国野生動物保全協会に表彰されました。

注:

1. 小草ボランティア団は、2005年度北東アジア青少年環境シンポジウムに参加し、また、朱彩鳳は、ドイツベル基金のご支援をいただき、「自然の友」という巡回教授坊に参加させて

いただき、さらに、唯一の代表として第二回持続発展可能教育国際シンポジウムに参加した後「コトウ市持続発展可能な教育協会」を登記しました（社団法人/会長：朱彩鳳）。

2. 《人類の友達を守り、生命のネットワークを大切に—素材》は「現状編—ふるさとの環境現状を調べよう」、「認識編—人類の友達を愛護しよう（Ⅰ 野生動物を食べる危害、Ⅱ 私たちと同様に地球家庭の一員である）」、「行動編—生物多様性を守る（Ⅰ 生物多様性を守る、Ⅱ “小草ボランティア団” は行動している）」と「責任編—調和は大自然精神の精髓である」を含めています。
3. 論文「行動しよう！愛鳥模範になろう」と「貴重かつ稀有（けう）な動植物を守ろう」は市青少年科学技術実践コンテストの三等賞をもらい、「馬氏核螺（ましかくるい）（巻貝の一種）に関する調査」は省青少年科学技術実践コンテスト高校部二等賞をもらいました。
4. 生き物を守り、鳥類を愛護し、生物多様性を保護し、生命ネットワークを大事にすることはずっと“小草ボランティア団”における主な仕事の内容です。1985年、会長である朱彩鳳がまだクラブ監督だった時に、隊員たちはパンダを守るためにお金を寄付し、中国野生動物保護協会から感謝状が送られてきました。